

【危機管理課職場関係者】

C（危機管理課 専門官） 51歳 男性

県庁に入ってから20年以上が過ぎたが、ここ10年ほどは危機管理課で勤務しており、自分もこの仕事に対するベテランであるという自負がある。

自分の若い頃はハラスメントという言葉もなく、指導に伴って少し手が出るなどということも普通にあり、反対にその様なコミュニケーションの中で育って良かったとも思っている。

一方で現在はハラスメントの防止については、厳しく指導をされているので、間違ってもパワハラは行わないように注意しているつもりであるが、地声が大きいので部下たちには多少怖がられているかもしれない。

女性の部下に対しては「ちゃん」付けをしているのは良くないと言われた事はあるが、親しみの感情を込めているものだし、軽く背中をたたくことはあるが、どちらも性的な意味ではないので、コミュニケーションの一環だと思っている。

今年の4月から入庁したばかりのAの指導を担当することとなった。

Aは一言でいえば大人しすぎるという印象で、部下になってからも何度か飲み会に誘ったが、あまり参加しないし、参加した時もアルコールは飲まずにウーロン茶などを飲んでいて、指示した仕事は多少時間がかかっても最後までやるが、自分から積極的に仕事を求めていくタイプではなかった。

1月の金沢への派遣は自分から申し出たとのことなので、少し感心したが現場では被災状況の写真や被災者と接することで、顔色が悪くなり余り働けてはいなかった。

初めての経験でもあるし、無理はさせられないのでその都度休ませたが、本人は大分無理をしていたようであった。

派遣の後半では誰か他の人と変わってもらうことを提案したが、本人はその人の迷惑になるので自分も残りますと言って断られた。

派遣の最終日に本人から危機管理課にいることを迷っていると相談を受けたが、進退に関わることは課長へ相談するように助言し、その上で本人から要望により派遣中のことも含めて、他の職員には話さないことを約束した。

2月以降、Aはいつもにも増して少し元気がないようにも見えたが、仕事はたんと続けていて、時折、会議室で課長と面談を行っているようであったが、異動のことだろうと思っていた。

Aは4月に入って結婚し、宿舎に入居したとのこと、結婚や引っ越しなどで少し疲れている様子であった。

異動の件については課長からは特に話しなかったもので、本人が取り下げたのかなと考えていた。

その後も少し元気がないようであったが、元々大人しい人間なので大きな悩みを持っているとは考えていなかったもので、今回自殺までしてしまったことは本当に驚いている。